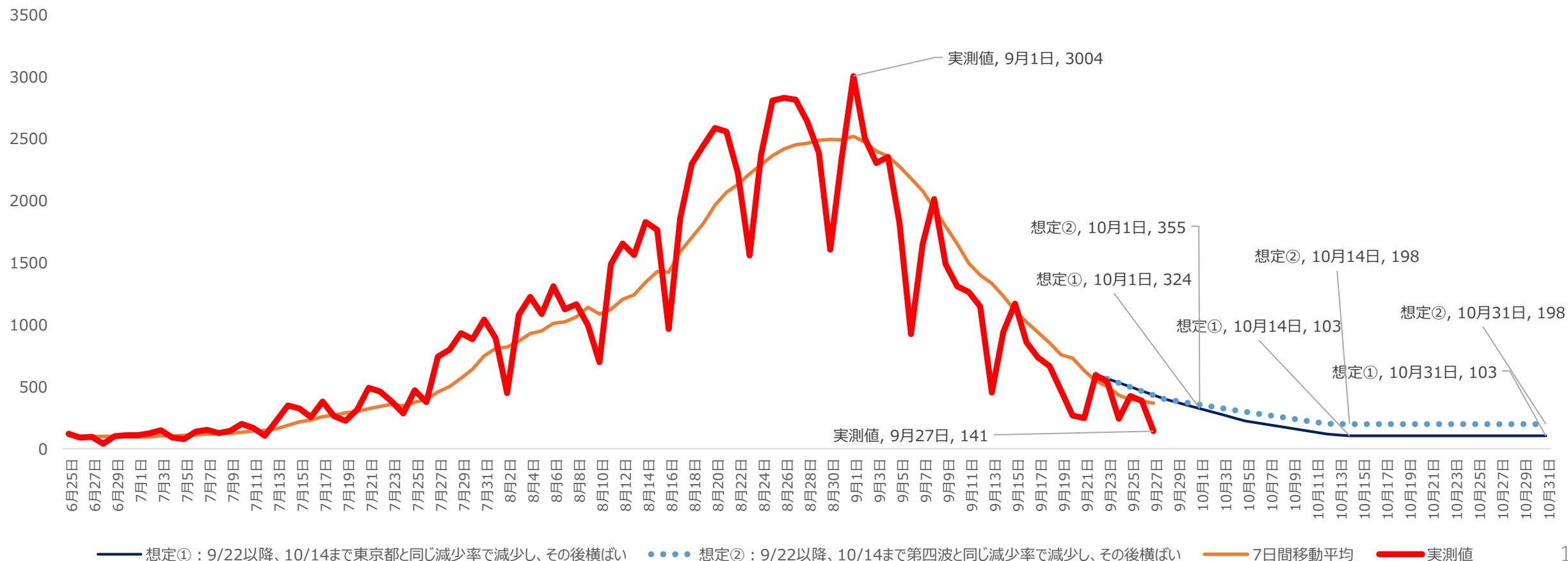


新規陽性者数のシミュレーション

- 前提条件
- ・9月30日に緊急事態宣言措置が解除され、10月1日以降はリバウンド防止のための段階的な措置が継続されると想定。
 - ・9月21日（7日間移動平均の値が630）を起点として、9月22日以降、以下の想定で減少し、10/14以降（宣言解除2週間後）、横ばいとなる。
 想定1：9/7以降の東京都と同じ前週比（東京都に比べ、大阪府は約10日間遅れて減少したことから、2週間前の前週比）で減少する。
 想定2：大阪府における第四波の6/3以降と同じ前週比（増加に転じるまでの4週間の前週比）で減少する。
 - ・新規陽性者における年齢構成は、9月21日時点の年代構成の割合（9/15～9/21までの7日間の割合：19歳以下 27.0%、20・30代 38.2%、40・50代 24.9%、60代以上 9.9%）で推移する。

新規陽性者数シミュレーション



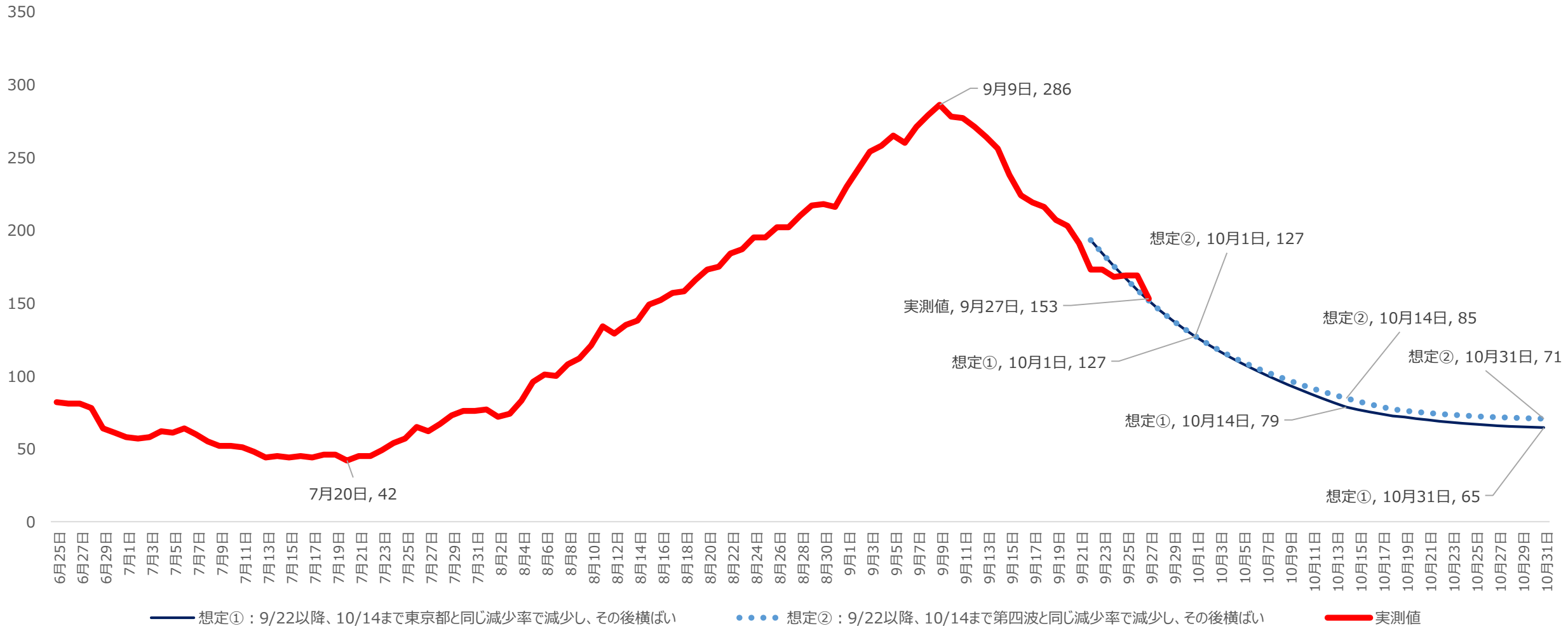
療養者数のシミュレーション

■前提条件：前ページの新規陽性者数で推移した場合の療養者数のシミュレーションを実施。

【重症率】 第五波における年代別の重症率を設定（6月21日から8月14日までの新規陽性者における重症者の割合（9月6日時点））

・60代以上の新規陽性者の重症率：5.8% ・40代・50代の新規陽性者の重症率：2.2% ・20代・30代の新規陽性者の重症率：0.2%

入院者数（重症）シミュレーション



療養者数のシミュレーション

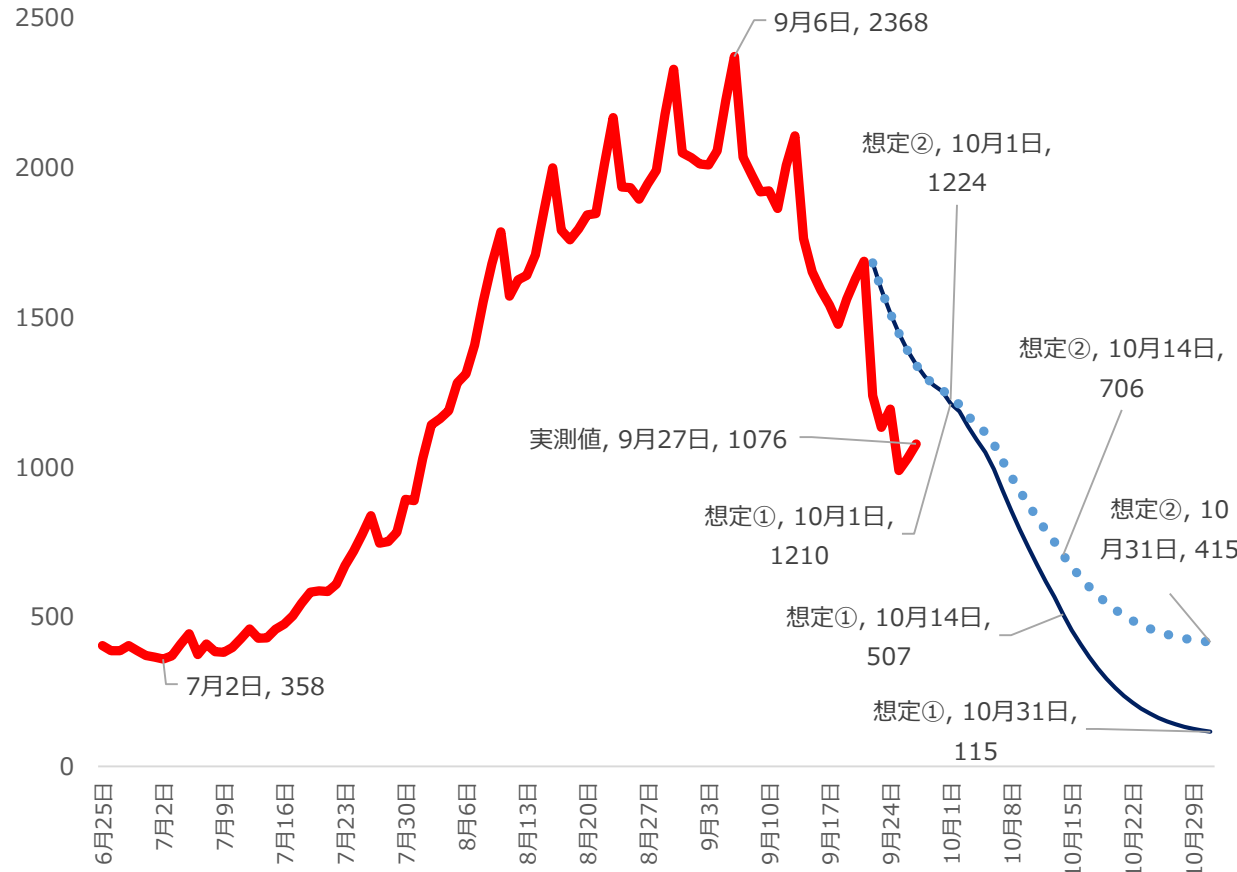
【療養方法の考え方】 重症患者以外の陽性者のうち、重症化リスク因子を有する者は軽症中等症病院への入院療養とする。全療養者中の入院率は25%と設定。

9月22日時点の全療養者中の軽症中等症の入院者数から、各年代の入院率を算出。60代以上は原則入院とする。

40・50代：39.8%、20・30代：9.7%、19歳以下：2.6%と設定

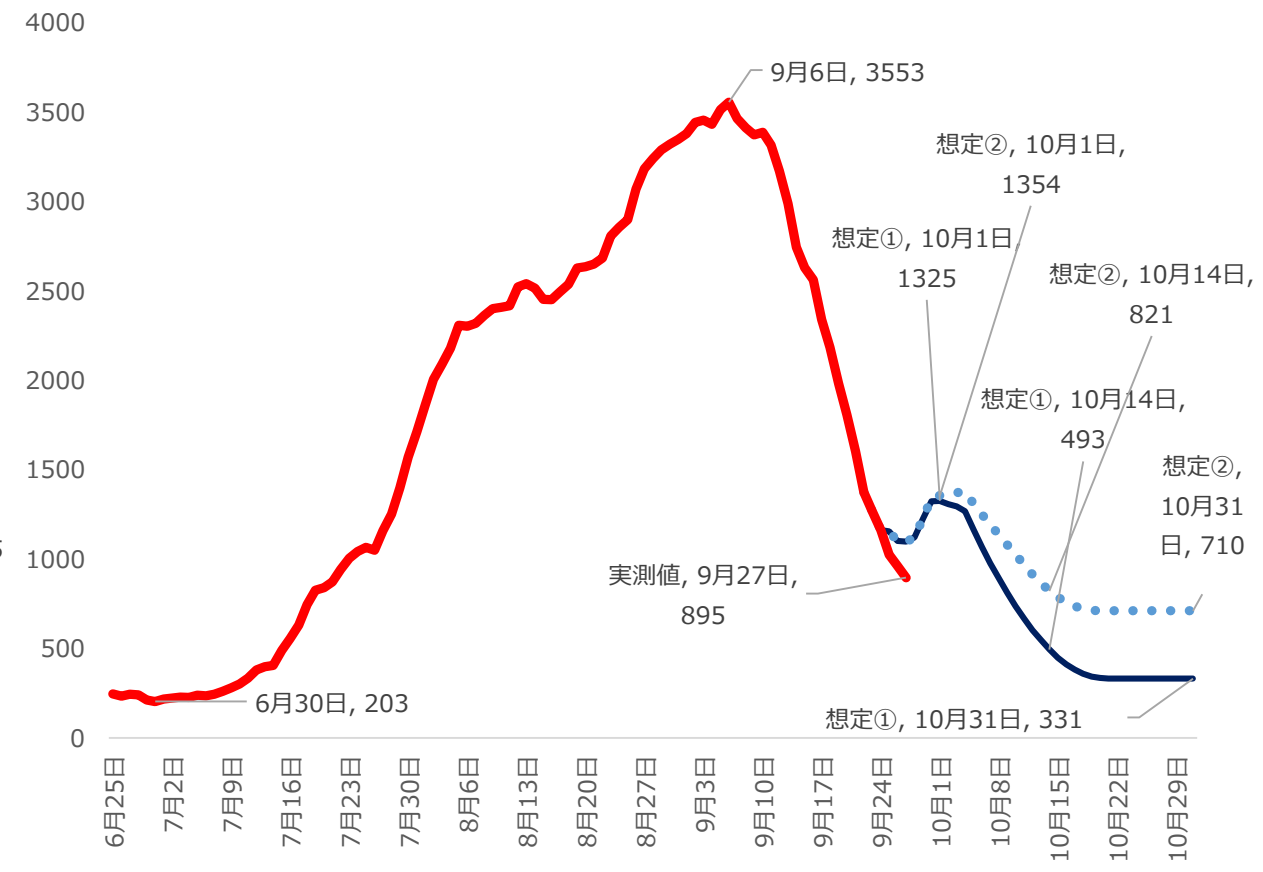
【宿泊療養する割合について】 新規陽性者のうち50%が宿泊療養となると設定。

入院者数（軽症中等症）シミュレーション



— 想定①：9/22以降、10/14まで東京都と同じ減少率で減少し、その後横ばい
 ●●● 想定②：9/22以降、10/14まで第四波と同じ減少率で減少し、その後横ばい
 — 実測値

宿泊療養者数シミュレーション



— 想定①：9/22以降、10/14まで東京都と同じ減少率で減少し、その後横ばい
 ●●● 想定②：9/22以降、10/14まで第四波と同じ減少率で減少し、その後横ばい
 — 実測値

療養者数のシミュレーション

療養者数（9月28日以降は想定①のシミュレーション）

療養者数（9月28日以降は想定②のシミュレーション）

